

4 英語教育の充実

①施策の展開	小中一貫教育の推進	課名	教育指導課
②取組概要	英語教育支援人材・外国人英語講師の配置、英検の受検料補助等により、英語力の向上に努めるとともに、児童生徒の国際理解を深め、コミュニケーション力の育成を図る。		
③構成取組	(1) 英検受検料補助事業 (2) 英語教育支援人材派遣事業 (3) 外国人英語講師業務委託事業		

④取組計画	<p>(1) 小学6年生の<u>児童英検</u>⁽⁷⁾受検を全額補助する。中学校英検受検については、3年間在籍中1人につき2回の補助のうち、1回は4級受検料を全額補助し、中学2年生全員が受検する。</p> <p>(2) 英語教育支援人材の補充募集を行い、小学校に12名配置する。各学校において、担任が一人で授業ができるよう指導支援を行うため、毎月、英語教育支援人材研修会を開催し、教材の交流、指導法研修などを行う。また、府事業「<u>使える英語プロジェクト事業</u>⁽⁸⁾」実施小学校4校においては、有効な活用方法等の研究を進める。</p> <p>(3) 選定委員会により2社を選定し、中学校区（中学校1校・小学校2校）に1人の外国人英語講師（NET）を12人配置する。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施中学校区2校での有効な活用方法等の研究を進める。</p>		
-------	---	--	--

⑤取組実績

(1) 児童英検・英検受検により、児童生徒自らが英語力を確かめ自信に繋げられるよう、各校とも受検の啓発に努めた。小学校では、全小学校で児童英検を受検するとともに、中学校においては、英検4級を合格することが3級受検へのモチベーションに繋がることから、まず、中学校2年生での4級受検を推奨する学校が多かった。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施校では、1年生が5級程度の英語力をつけることが成果指標になっており、第六中学校、中木田中学校の1年生が5級を受検した。

<受検率の推移>

級別	平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	受検者数	在籍数	受検者数	在籍数	受検者数	在籍数
2級・準2級	2.9%		3.0%		1.8%	
	62人	2,126人	61人	2,001人	39人	2,133人
3級	29.0%		24.9%		29.0%	
	616人	2,126人	499人	2,001人	618人	2,133人
4級	39.1%		43.8%		87.7%	
	786人	2,008人	936人	2,135人	1827人	2,083人
5級	40.8%		35.7%		43.8%	
	874人	2,140人	745人	2,086人	917人	2,095人

2級・準2級受検率……2級・準2級受検者数／3年在籍数
 3級受検率……………3級受検者数／3年在籍数
 4級受検率……………4級受検者数／2年在籍数
 5級受検率……………5級受検者数／1年在籍数

【児童英検について】 ブロンズ・シルバー・ゴールド受検

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
ブロンズ	本市 6 年生 (平均点) 受験者数 1,948 人	85.7 点	86.3 点	86.1 点
	児童英検全体 (平均点)	81.4 点	81.4 点	81.4 点
シルバー	本市 6 年生 (平均点) 受験者数 83 人	83.9 点	85.7 点	86.4 点
	児童英検全体 (平均点)	83.6 点	83.6 点	83.6 点
ゴールド	本市 6 年生 (平均点) 受験者数 86 人	76.6 点	73.8 点	79.7 点
	児童英検全体 (平均点)	74.5 点	74.5 点	74.5 点

(2) (3) 英語教育支援人材においては、担任と協力して授業を構築し、児童のコミュニケーション力を育成するため、支援者として授業を補助した。また、英語ルームの整備などにも尽力するとともに、市の研究発表会についても、小5・小6の授業について、指導案の作成や教材の開発を行い、国際理解に繋がる体験的なコミュニケーション活動を実施した。

外国人英語講師 (NET) による、豊かなコミュニケーション活動により、児童生徒が国際コミュニケーション科の授業を楽しむとともに、学ぼうとする意欲も向上した。

11月11日(金)と12日(土)の2日間、「寝屋川市小中学校英語教育特別推進地域研究発表会」を開催し、他市・他府県を合わせ、1,700名を越える参加を得たが、その中で、支援人材NETを活用した「小5・小6」の外国語活動と「中1」の外国語(英語)科に焦点をあてた研究の成果を発表した。また、府事業「使える英語プロジェクト事業」実施校による中学校区児童生徒の英語交流会を実施する中で、指導方法の改善や学習意欲の向上に向けた取り組みの研究も進めた。

⑥評価

- (1) 英検受検については、4級の受検率が倍増したことは評価できる。3級受検については伸びなかったが、今後、4級合格者が確実に3級受検できるよう、さらなる授業改善とともに、NETを活用した面接練習など実践的な指導を充実させていく必要がある。
- (2)(3) 英語教育支援人材の配置により、小学校担任による国際コミュニケーション科の授業について、不安なく実施することができている。小学校における指導力の向上とともに、小学校間・小学校中学校間の連携や交流も図れた。また、外国人英語講師の配置等により、外国の暮らしや文化等に対する児童生徒の興味関心も、変わらず高い数値を示しており、国際理解についての意欲・関心が向上していると考えられる。しかし、特に中学校では、NETを生かした授業を工夫しなければ、子どもたちのコミュニケーション力の向上には結びつかない。さらなる授業改善に取り組む必要がある。小5・小6・中1の3年間に焦点をあてた研究発表会については、発達段階に応じた指導法の提案という意味でも高い評価を得た。